



病理診断部 業務実績報告 (2022年 1月~12月)

◎組織診

受付件数	15,179件
作製ブロック数	68,035個
HE染色枚数	88,708枚
特殊染色枚数	41,334枚
術中迅速診断件数	898件
術中迅速診断ブロック作製個数	1,820個
センチネルリンパ節診断件数	200件
センチネルリンパ節診断ブロック作製個数	692個
未染スライド薄切枚数 (免疫染色用・外注用など)	29,523枚

◎免疫組織化学 (IHC)

IHC件数	3,779件
IHC染色枚数	19,015枚
ER・PR*件数	571件
Her2*件数	602件
FISH*件数	94件
EBER1*件数	172件

*ER・PR、Her2：酵素抗体法
*FISH：蛍光 in situ ハイブリダイゼーション
*EBER1：EBウイルス関連リンパ腫、胃がん等の確定診断のための検査

■剖検：

病理解剖の件数は年々減少傾向です。病理解剖では画像診断(AI)で得られない情報を知ることができ、また、病理解剖・診断により正確な死因や治療の適切性も検討することができます。CPC(病理-臨床検討会)は研修病院として必須となっています。

◎細胞診

受付件数	14,411件
迅速件数	262件
総染色枚数	30,921枚

◎剖検 (病理解剖)

件数	18件
うち院外剖検	4件

■組織診：

前年に比べ、検体数は増加傾向にあります。至急提出検体も年々増加しています。外注検査(特にPD-L1、MSI検査)の増加に伴い、未染色スライドの枚数が増加しました。術中迅速診断全体の件数は横ばいですが、センチネルリンパ節診断は、件数及びブロック作製数が増えています。

■免疫：

IHCの件数・枚数共に、2020年をピークにやや減少しています。Her2-IHCの染色プログラム変更に伴い、疑陽性が減少し、Her2-FISH検査は減少傾向にあります。皮膚科の蛍光染色依頼が増加しています。

■細胞診：

借用標本の依頼件数が増加しています。診療科によって平年並みもしくは減少傾向ですが、消化器内科・外科などでは検体依頼件数が増加傾向です。

■電頭：

前年より検体数が増加しました。臨床医や病理医のニーズに応えられるよう、日々Banff分類等の最新情報や知識を技師間で共有し合い、正確な病理診断のために貢献しています。

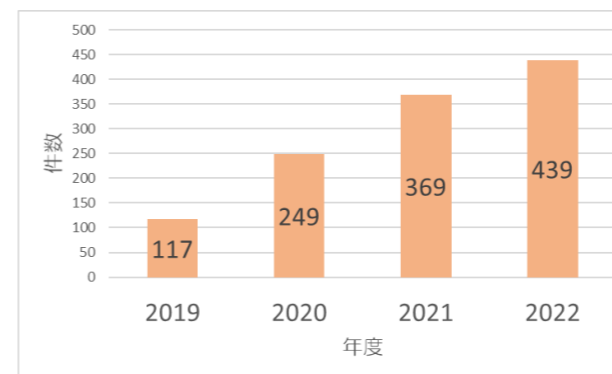
◎電子顕微鏡検査

件数	313件
----	------

◎蛍光抗体法

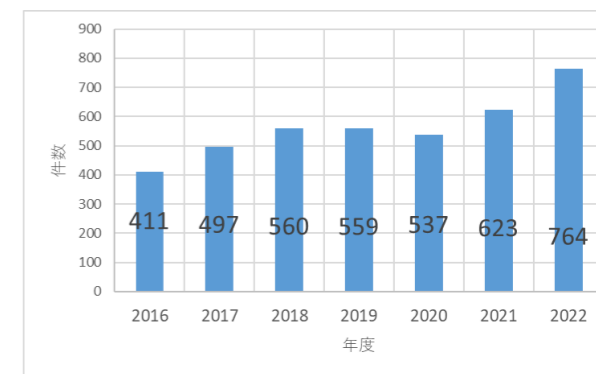
件数	464件
染色枚数	2,973枚

至急提出検体



■至急提出検体はここ数年で大幅に増加しています。薄切、染色工程を通常検体と分けて行うため、増加を実感しました。

未染スライド



■外注検査の需要増加により、未染色スライドの作製枚数は増加傾向です。特に、MSIとPD-L1検査が増えています。

合格しました！！

茂呂技師：2級臨床検査士(病理学)

岡田技師：2級臨床検査士(病理学)

遺伝子科学分析認定士(初級)



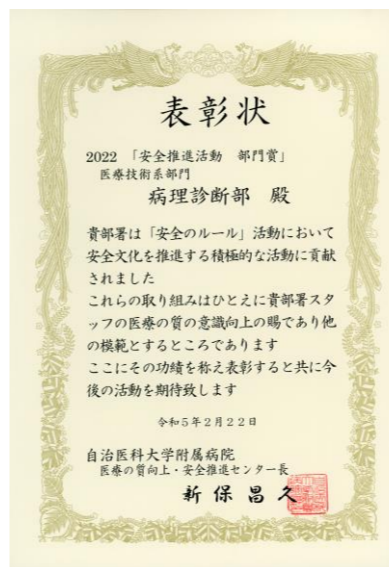
病理診断部の皆様のお力添えもあり、無事に合格することができました。資格試験を通して学んだことを今後の業務に生かしていきたいと思います。

(茂呂・岡田)

QSセンター長賞を受賞しました！！

「安全のルール」活動において安全文化を推進する積極的な活動に貢献したとの事由で、《安全推進活動 部門賞》をいただきました。

気づきメモやインシデントレポート報告など、医療安全活動を病理診断部スタッフ全員で情報共有して継続してきた賜物と思います。今後も報告文化の醸成に向けて邁進してまいります。



右：現QSマネージャー 山本主任
左：旧QSマネージャー 飛田野技師

検体受付および剖検受付時間 8:30 ~ 17:15 (内線 2257)

注) 土曜日は剖検のみ受付(15:00まで 3連休以上は院内向けポータルサイト参照)
(内線 2257 or PHS 18218)

ニュースレター PATHO News 病理診断部 No.56 2023. 3. 31

発行：福嶋敬宜(ふくしま のりよし)

編集：岡田啓祐(おかだ けいすけ) 茂呂実咲(もろ みさき) 二階堂貴章(にかいどう たかあき)

織田智博(おだ ともひろ) 郡俊勝(こおり としかつ) 飛田野清美(ひだの きよみ)